

新聞協会の地球温暖化対策の取り組み

2020年3月3日

一般社団法人 日本新聞協会

目 次

1. 昨年度専門委員会での指摘事項への対応
2. 新聞協会の概要
3. 新聞協会の環境対策の取り組み
4. 加盟各社の環境啓発活動
5. 最後に

はじめに

新聞は、国の内外で日々起きる広範なニュースや情報を正確に報道し、多様な意見・論評を広く国民に提供することによって、民主主義社会の健全な発展と国民生活の向上に大きく寄与している。

新聞が果たす公共的・社会的役割は、全国津々浦々に張り巡らされた戸別配達網・新聞販売所の活動によって支えられている。

デジタル化が進み、多様な情報伝達手段が登場する今日だが、新聞は中核的メディアとして機能している。

1. 昨年度専門委員会での指摘事項の整理

指摘事項	新聞協会回答
1. 数値目標の深掘りの検討	<p>30年目標に移行しわずか3年であり、早急な見直しの検討に入る段階にないと考える。「年平均1%削減」は省エネ法に準拠しており、わかりやすく、数値も妥当といえる。</p> <p>現在の数値目標は適切であると考えますが、今後のアンケート結果を踏まえ、その都度検討していきたい。</p>
2. 本社ビル、印刷工場、監理外としている輸送部門の状況把握	<p>新聞輸送は複数の業者が担当するうえ、非常に複雑な配達網を形成しており、新聞社による全体把握は困難。</p> <p>委託先へ取り組みの充実を働きかけている。</p>

1. 昨年度専門委員会での指摘事項の整理

指摘事項	新聞協会回答
3. 他部門での貢献（サプライチェーン）の検討	<p>新聞協会加盟社は、カーボン・オフセットの取り組みや古紙回収、再生可能エネルギーの使用などに取り組んでいる。 ⇒スライドp21参照</p>
4. 「延べ床面積」以外の項目の検討	<p>他業種と比較すると新聞印刷工場がフル稼働する時間帯は限られるので、動力系より建屋系のエネルギー消費量が多い。 省エネ法に準拠していること、削減率が見えやすく各社が自主行動計画に参加しやすいことも加味し、「延べ床面積」を採用している。</p>

2. 新聞協会の概要

加盟社数：新聞103社 通信4社 放送22社 (2019年12月現在)

新聞社従業員数：97社 (法人単位) 3万8594人 (2019年4月現在)

発行部数：3990万1576部 (2018年10月現在。朝夕刊セット1部換算)

戸別配達率：95.29% (2018年10月現在)

1世帯当たり部数：0.70部 (2018年10月現在)

2. 新聞協会の概要

新聞は正確な情報と公正な論評で
民主主義の発展に寄与する

⇒次代を担う子どもたちや学生、若手社会人に新聞の大切さを知ってもらうことが重要な課題。

2. 新聞協会の概要

新聞が届くまで

輸送経路は複雑かつ多岐にわたるが、輸送会社(外部委託)は、ルート shortest化や共同輸送などで工夫している

新聞社
●
通信社



印刷工場

輸送会社

(別会社)

販売所

読者

独立事業者

※折り込み広告(新聞に折り込んであるチラシ)は、新聞社から独立した新聞販売所の事業。

2. 新聞協会の概要

紙とデジタルの関係

報道機関が地球温暖化対策に貢献する手段は、国民にあまねく情報を伝達すること。この使命を全うする媒体として、我々は、環境負荷低減を目的に「紙」を減らして「デジタル」媒体を増やすという考え方はとっていない。「紙」か「デジタル」かの以前に、国民が情報に接する機会を増やすことが重要。



「紙」と「デジタル」
一方の需要が増えれば
もう一方が減るといものではない



3. 新聞協会の環境対策の取り組み (基本認識と対応)

基本認識と対応

新聞・通信社は、企業として、省エネ・リサイクル活動を推進し、地球温暖化防止に向けた努力をする。

新聞・通信社は、報道・言論・事業活動を通じ、環境問題に対する読者の意識を高める。

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (新聞協会組織としての対応)

新聞メディアの強化に関する委員会

(15社15人の経営幹部で構成)



新聞・通信社環境対策会議

(15社15人の総務・管理部門責任者で構成)

経営トップ主導で推進

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (第3次自主行動計画の策定)

- 2007年10月 「環境対策に関する自主行動計画」
- 2013年 4月 「 同 第2次自主行動計画」

2020年数値目標（第2次計画）は、2015年度までに達成を確認。

2016年12月、新たな2030年数値目標を策定し、「**環境対策に関する第3次自主行動計画**」に移行。

移行4年目の現在、鋭意努力中。

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標①)

数値目標指標は「エネルギー消費原単位」

エネルギー消費量（原油換算・kl）

÷

延べ床面積（m²）

2030年まで年平均1%削減を目指す

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標②)

エネルギー消費原単位算出の分母は
「延べ床面積」

- 省エネ法準拠
- エネルギー消費の実態に合致
- 削減率が見えやすく、各社の参加を後押し
- 新聞印刷工場の性質を考慮

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (2030年数値目標②)

《新聞社の印刷工場の特徴》

- ・印刷から発送完了まで様々な工程があるうち、工場がフル稼働する印刷時間帯は短い（販売店に届ける時刻が決まっているため）。
- ・照明や空調など建屋系のエネルギー消費量が、機器類を稼働させる動力系よりもウエートが大きい場合が多い。

《新聞印刷の実態》

- ・自社・グループ会社での印刷、他社への委託など社により印刷体制が異なる。
- ・社により部数が大きく異なる。



新聞協会では今後も、生産量ではなく「延べ床面積」により、エネルギー消費原単位を算出していくことにしている。

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (参加社数・社数カバー率)

2018年度環境自主行動計画

◎参加社数 : 104社
(新聞・通信107社が対象)

◎社数カバー率 : 97.2%

参加社数、社数カバー率とも

ほぼ**100%**を達成

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (達成状況)

2030年数値目標の達成状況（エネルギー消費原単位の推移）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
エネルギー消費原単位	95.70	90.14	86.37	83.58	79.97	76.41
年平均削減率（%）		▲5.8	▲5.0	▲4.4	▲4.4	▲4.4
エネルギー消費量 （原油換算・万kl）	23.38	22.27	21.55	21.37	20.54	19.43
延べ床面積（千㎡）	2442.7	2470.2	2494.7	2556.7	2568.2	2542.2
社数カバー率（%） 調査回答社数（社）	94.4 102	95.4 103	98.1 106	99.1 107	98.1 106	97.1 104

※調査は新聞協会加盟新聞・通信107社が対象。

※過去のエネルギー消費量などに修正が出た場合は、翌年度に修正後の数値で再計算している。

現時点でクリア

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み①)

実施率が8割を超える環境対策

	(実施率)
不要照明の小まめな消灯	(95%)
クールビズ、ウォームビズの実施	(93%)
事務用紙使用量の削減 (両面印刷や社内文書の電子化)	(85%)
照明対応 (間引き、人感センサー型導入)	(81%)

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み②)

省エネのための具体的対策

➤ 照明のLED化

社屋ビル、印刷工場等で積極的に対応

➤ 空調機器、熱源機器の更新

省エネ性能の高い機器類を順次導入

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (具体的な取り組み③)

- 新聞印刷時に発生する「損紙」の節減
- 古紙や新聞用梱包材などのリサイクルの推進
- パルプ使用量を極力減らした新聞用紙、古紙配合率の高い再生紙の使用

＜新聞の古紙回収率＞ 2018年149.6%

※新聞の古紙回収には折り込み広告も含まれるため、回収率は100%を超えている。2006年は145.3%

＜新聞の古紙回収量＞ 2018年378.8万トン（国内古紙回収量の18.3%）

【出典】古紙ハンドブック2019

(<http://www.prpc.or.jp/wp-content/uploads/handbook2019.pdf> 日本古紙再生センターHP 2019.11.12現在)

- インキ量を抑えることができる高濃度インキを使用

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (技術開発、サプライチェーンの取り組み)

技術開発は各社対応が原則

各社の努力の積み重ねにより、環境負荷低減、地球温暖化防止に大きく貢献し、サプライチェーンの取り組みにもつながっている。

《新聞協会としての活動》

- 『新聞技術』等の機関紙誌を通じた情報共有
- 「新聞協会賞」など各種顕彰活動
- 先進社の事例見学、セミナー等の企画・実施

3. 新聞協会の環境対策の取り組み (技術開発、サプライチェーンの取り組み)

環境にかかわる企業としての他部門での社会貢献活動(サプライチェーン)

＜加盟各社の取り組み一例＞

- カーボン・オフセットの取り組み
- 植林
- グリーン購入
- 販売所などによる古紙回収
- 地域清掃活動
- 再生可能エネルギーの使用



4. 加盟各社の啓発活動

加盟各社の啓発活動事例

- ①朝日地球会議(朝日新聞社)
- ②日韓(韓日)国際環境賞(毎日新聞社)
- ③紙面記事、広告における環境啓発活動(読売新聞社)
- ④日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ」の開催(日本経済新聞社)
- ⑤「ふくのわプロジェクト」(産経新聞社)
- ⑥北海道内におけるSDGsの取り組みに関する連載記事(北海道新聞社)
- ⑦「あしたのみどりキャンペーン」(河北新報社)
- ⑧「富士山クリーンキャンペーン2019」(静岡新聞社)
- ⑨G20エネルギー・環境関係閣僚会合での県内高校生提言の紹介記事(信濃毎日新聞社)
- ⑩「Viva地球」(中日新聞社)
- ⑪京都新聞滋賀本社ビルリニューアルオープン(京都新聞社)
- ⑫「エコキャンプ2019」(山陽新聞社)
- ⑬「環境教室体験レポート」(中国新聞社)
- ⑭中高生による海外植林活動「ハチドリ隊」(西日本新聞社)
- ⑮環境問題に関する配信記事(共同通信社)

4. 加盟各社の啓発活動 ①朝日新聞社



2030
SDGsで変える

地球の限界 越えないために



プラネタリー・パウンダリー

人類が地球環境を壊さずに繁栄を続けるための9要素を特定し、発表された。地球の限界を越えないための9要素を特定し、発表された。地球の限界を越えないための9要素を特定し、発表された。

科学的な目標 あらゆる活動に反映を 地球を変える力ある今 正しい管理必要

人類が地球環境を壊さずに繁栄を続けるための9要素を特定し、発表された。地球の限界を越えないための9要素を特定し、発表された。地球の限界を越えないための9要素を特定し、発表された。

17分野の目標を掲げ、2030年までに達成をめざす国連のSDGs（持続可能な開発目標）。地球と人類の将来のためにどう行動すべきか。10月15日の朝日地球会議2019（2日目）で、ポツダム気候影響研究所理事のヨハン・ロックストロムさんと動画で対談し、キャスターの国谷裕子さんが対談しました。

ロックストロムさん、地球への負荷は90%以上が人間の活動による。CO2の半分は木々や海に吸収された。地球にはCO2を吸収し、気温を上昇させない力があり、世界経済への最大の補助金です。海洋は化石燃料を燃やして出される熱の90%を吸収していますが、これは限界があります。地球は私たちが思っているよりも速く暖かくなっています。地球の回復力は、思っているよりも速く減っています。地球の回復力は、思っているよりも速く減っています。



ヨハン・ロックストロムさん
ポツダム気候影響研究所理事



国谷裕子さん
キャスター

ロックストロムさん、地球への負荷は90%以上が人間の活動による。CO2の半分は木々や海に吸収された。地球にはCO2を吸収し、気温を上昇させない力があり、世界経済への最大の補助金です。海洋は化石燃料を燃やして出される熱の90%を吸収していますが、これは限界があります。地球は私たちが思っているよりも速く暖かくなっています。地球の回復力は、思っているよりも速く減っています。地球の回復力は、思っているよりも速く減っています。

「2095年 私か90歳になった時には…」中高生ら質問

会場では対談を聞いた中高生ら5人もロックストロムさんに英語で質問をした。吉村女子高校（東京）2年の前田亜由香さんは「日本では猛暑対策でエアコンを使いますが、それだけで二酸化炭素を排出します。この悪循環からどうやって抜け出せるのでしょうか」と尋ねた。ロックストロムさんは「エアコンの稼働に再生可能エネルギーが利用できるか、空温を適度に保つことができる建築物をもっと検討する必要があります。」と答えた。



対談を聞く学生

東京都立南多摩中等教育学校5年（高2）の小坂菜緒さんは自分の学校が使い捨てストローの使用をやめたことを紹介し、「この他に私たちが何かできますか」と尋ねた。ロックストロムさんは取り組みを評価したうえで「あなたの学校でどんな再生可能エネルギーが活用できそうか、クラスでさらに議論してみてください。」と答えた。玉川学園高等学校（高1）1年、谷田陽香さんからの質問は「人が地球上に住めなくなる時と、火災に住めるようになる時と、どちらが先にやってくると思いますか。」と尋ねた。ロックストロムさんは「気候変動の脱炭素のシナリオ通りになったとしても、地球上に文明はあると確信しています。人類がどう行動するかは問題なのだと思います。」と答えた。

朝日地球会議

朝日新聞社は、国際シンポジウム「朝日地球会議2019」を10月14日から3日間、都内で開催した。「ひらかれた社会へ 多様性がはぐくむ持続可能な未来」をテーマに掲げ、東京五輪とSDGs、海洋プラスチック、すり減らない働き方、自分らしく生きる、食品ロス、ブロックチェーンとビッグデータ、AI、先端技術、アイスランドに学ぶジェンダー平等など約30のセッションを開催した。気候変動問題の第一人者ヨハン・ロックストロム博士と国谷裕子さんの対談では、中高大生から地球の将来について鋭い質問があった。人工知能が民主主義に及ぼす影響をとりあげたパネルディスカッション「AIと民主主義」では米政治学者ヤシャ・モンクさん、米データサイエンティストのキャシー・オニールさん、数学者の新井紀子さんが活発な議論を展開した。温暖化の影響で、開催直前に台風19号に直撃されたが、3日間でのべ5千人が聴講した。

4. 加盟各社の啓発活動 ③読売新聞社



共鳴する、地球環境への願い。

イオン環境財団の主な活動内容

2017年8月、イオン環境財団は日本ユネスコエコパークネットワークと連携協定を締結しました。

2018年～2019年種樹予定

2018年	千葉県 市原市	4月28日(土)
	福島県 南相馬市(復興支援活動)	6月10日(日)
	三重県 松阪市	6月16日(土)
	千葉県 佐倉市	7月7日(土)
	インドネシア ジャカルタ	9月22日(日)
	千葉県 船橋市	10月 6日(日)
	宮城県 仙台市	10月20日(土)
	大分県 竹田市	11月10日(日)
	千葉県 千葉市	11月24日(土)
2019年	三重県 松阪市	6月15日(土)
	インドネシア ジャカルタ	7月 6日(日)

ホームページ <http://www.aeon.info/ef> イオン環境財団

公益財団法人イオン環境財団

持続可能な開発目標・SDGsのために / 今日からアクションを起こそう

読売新聞グループ本社と日本マクドナルドが共同で、新聞の共同輸送を始めた。トラックの削減により、二酸化炭素の排出抑制につながる。国産交通、経済産業、農林水産の3省は同日、物流統合強化を推進する。SDGsの観点から、新聞の共同輸送は、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。

環境教育賞 旭丘高は優秀賞

読売新聞グループ本社と日本マクドナルドが共同で、新聞の共同輸送を始めた。トラックの削減により、二酸化炭素の排出抑制につながる。国産交通、経済産業、農林水産の3省は同日、物流統合強化を推進する。SDGsの観点から、新聞の共同輸送は、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。

絶滅危惧種 生息地を保全 屯田北中・科学部

読売新聞グループ本社と日本マクドナルドが共同で、新聞の共同輸送を始めた。トラックの削減により、二酸化炭素の排出抑制につながる。国産交通、経済産業、農林水産の3省は同日、物流統合強化を推進する。SDGsの観点から、新聞の共同輸送は、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。

新聞と塩 共同輸送

読売新聞グループ本社と日本マクドナルドが共同で、新聞の共同輸送を始めた。トラックの削減により、二酸化炭素の排出抑制につながる。国産交通、経済産業、農林水産の3省は同日、物流統合強化を推進する。SDGsの観点から、新聞の共同輸送は、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。

紙面記事、広告による 環境啓発活動

マクドナルドが読売新聞と共同で、新聞の共同輸送を始めた。トラックの削減により、二酸化炭素の排出抑制につながる。国産交通、経済産業、農林水産の3省は同日、物流統合強化を推進する。SDGsの観点から、新聞の共同輸送は、環境負荷の削減に貢献する。読売新聞グループ本社と日本マクドナルドは、この取り組みを、SDGsの観点から、環境負荷の削減に貢献する。

4. 加盟各社の啓発活動 ④日本経済新聞

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ」を開催

一般社団法人産業環境管理協会との共催で、2019年12月の3日間、東京ビッグサイトで開催、14万7653人が来場した。

人と自然と地球にやさしい、最先端の環境製品・サービスを体感しながら地球温暖化の緩和などの環境問題、持続可能な社会の実現を考えるイベントを目指している。



4. 加盟各社の啓発活動 ⑤産経新聞社



衣類のリユースでパラスポーツを応援！ ふくのわプロジェクト

産経新聞社では家庭などから不要な衣類を寄付してもらい、売却した収益で4つのパラスポーツ競技団体を応援している。2016年にスタートし、同年と翌年度の東京都環境局「持続可能な資源利用に向けた」モデル事業に採択された。

2019年からは東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育「スクールアクション『もったいない』大作戦～東京3Rプロジェクト～」の活動にも位置付けられ、これまでに累計で都内の公立約330校がふくのわの活動に取り組んでいる。

日本パラ・パワーリフティング連盟がカザフスタンで開催された世界選手権で使用する日本代表選手団のユニフォームの製作費に充てるなど、収益は有効に活用されている。パラスポーツの応援が寄付者のモチベーションともなっており、衣類の回収量は年々倍増している。

ふくのわでは現在、都内を中心に定置型の衣類寄付ボックス設置を進め、サステイナブル（持続可能）な衣類回収体制の構築を目指している。

これまでの衣類の総回収量は約190トン、収益総額は約380万円（2019年10月25日現在）。

4. 加盟各社の啓発活動 ⑥北海道新聞社

2019年(令和元年)06月07日(金曜日) 北海道新聞 朝刊 社会経済 特集 18ページ

SDGsがわかる 未来開く「課題先進地」

SDGsの17目標

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

道内の取り組みは

道内のSDGs未来都市が重点的に取り組む目標

道外のSDGs未来都市

エネルギー、協働、まちづくりにか

フェアトレード札幌で活発

道庁が主催する「フェアトレード札幌」は、道民の意識を高め、持続可能な消費を促す取り組み。道民は、フェアトレード商品を通じて、生産者の生活改善や環境保護に貢献できる。道庁は、フェアトレード商品の販売促進や、生産者の支援に取り組んでいる。

道民のSDGs未来都市が重点的に取り組む目標

道民のSDGs未来都市は、道民の生活と密接に関わる目標を中心に取り組んでいる。例えば、Nisekoでは「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」(目標7)や「働きがいも経済成長も」(目標8)に取り組んでいる。Nemuroでは「住み続けられるまちづくりを」(目標11)や「気候変動に具体的な対策を」(目標13)に取り組んでいる。Sorachiでは「産業と技術革新の基盤をつくろう」(目標9)や「働きがいも経済成長も」(目標8)に取り組んでいる。

「持続可能な開発目標 (SDGs) を広く知ってもらおう」

北海道では「持続可能な開発目標 (SDGs)」の国連採択前から市民団体が活動をはじめ、特に学生の取り組みが活発だ。国のSDGs未来都市には北海道と札幌市、下川町、ニセコ町が選ばれている。18年末に北海道が「推進ビジョン」を作成し、民間企業にも広がりにつつある。北海道新聞は19年4月から「SDGsがわかる」と題した1ページ特集を毎月掲載し、小学生新聞などでも分かりやすく解説。8月にはフォーラムを開催した。

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製および頒布は禁止します。

4. 加盟各社の啓発活動 ⑦河北新報社

ふるさとの社再生プロジェクト

プロジェクトの目的…東部地区のみどりの再生・創出
プロジェクトの目標…東日本大震災で失われたみどりの再生に加え、復興の過程で生まれる新しいみどり(ふるさとの社)を市民協働で植えて育てることで、やがて防災や環境保全の機能を持つ東部地域の風景を再生し、市民の暮らしに親しみみどりを創出します。
 また再生したふるさとの社を活用し、レクリエーションや文化活動を行うことで市民の心のふるさととなることを目指しています。

海岸林の成長イメージ

「ふるさとの社再生寄付」を募集しています

育樹会、年間予定

育樹会	年間予定	募集期間	定額	心付け
第一育樹会	5月10日(日) 5月17日(日) 5月24日(日)	10月1日(日) 10月8日(日) 10月15日(日)	1000円	1000円
第二育樹会	6月7日(日) 6月14日(日) 6月21日(日)	11月1日(日) 11月8日(日) 11月15日(日)	1000円	1000円
第三育樹会	7月5日(日) 7月12日(日) 7月19日(日)	12月1日(日) 12月8日(日) 12月15日(日)	1000円	1000円

【育樹会 申込方法(申込先)】 各団体の事務局へ
 ①仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ②仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ③仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ④仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑤仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑥仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑦仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑧仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑨仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑩仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑪仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑫仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑬仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑭仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑮仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑯仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑰仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑱仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑲仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ⑳仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉑仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉒仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉓仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉔仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉕仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉖仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉗仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉘仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉙仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉚仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉛仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉜仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉝仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉞仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㉟仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊱仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊲仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊳仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊴仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊵仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊶仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊷仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊸仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊹仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊺仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊻仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊼仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊽仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊾仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 ㊿仙台市東部地区復興支援センター(9時～17時) 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター
 仙台市東部地区復興支援センター 仙台市東部地区復興支援センター

「ふるさとの社再生プロジェクト」Facebookページをご覧ください!
 ふるさとの社再生プロジェクト

ふるさとの社再生プロジェクトに関するお問い合わせは、仙台市復興局百年の記憶課 022-214-8389まで

石巻地区 集合所

みんなで大切に 手をかけてきた花壇

こほれんばかりに美しげな花壇が、10周年の記念行事の会場を彩りました。花壇には、色とりどりの花々が咲き誇り、訪れた人々の目を惹きつけていました。花壇の維持管理には、市民協働の力が大きく貢献しています。

生徒たちの笑顔と 学びから喜びを

教室の隅に咲かせた花壇が、児童たちに大きな喜びをもたらしました。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

学校も取り組みを評価

学校も取り組みを評価し、花壇の維持管理を推進しています。児童たちの学びから喜びを、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

行き交う人、訪れる人の 目を惹きつけて、心を和ませ

花壇は、行き交う人、訪れる人の目を惹きつけて、心を和ませる役割を果たしています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

植樹から10年 三神堂公園のサクラ

植樹から10年、三神堂公園のサクラが美しく咲き誇っています。市民協働の力で、公園の風景を再生しています。

市民協働の力で、地域の風景を再生

市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

花壇の維持管理、市民協働の力が大きく貢献

花壇の維持管理、市民協働の力が大きく貢献しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

花壇の維持管理、市民協働の力が大きく貢献

花壇の維持管理、市民協働の力が大きく貢献しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

あしたのみどり キャンペーン

あしたのみどり キャンペーンは、市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

あしたのみどり キャンペーン

あしたのみどり キャンペーンは、市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

あしたのみどり キャンペーン

あしたのみどり キャンペーンは、市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

あしたのみどり キャンペーン

あしたのみどり キャンペーンは、市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

あしたのみどり キャンペーン

仙台市教育委員会、仙台商工会議所、仙台市などとの共催で2009年から継続して行なっている事業。東日本大震災後は「失われたみどりの再生」をテーマに実施している。

(2019年6月27日付朝刊)

あしたのみどり キャンペーン

あしたのみどり キャンペーンは、市民協働の力で、地域の風景を再生しています。花壇の維持管理を通じて、地域への愛着や環境意識を育んでいます。

みどりを楽しみ育てよう! わたしの好きな「みどりのある風景」募集

あしたのみどり キャンペーンWEBサイトの投稿フォームから応募受付中! 応募期間は6月27日(木)～12月31日(木) 期間中ご応募いただいた情報は随時公開 応募開始: 11月30日(土)まで 公開期間: 6月27日(木)～12月31日(木) 期間中ご応募いただいた情報は随時公開 投稿いただいた方には抽選でプレゼントがあるチャンス! 詳しくは、WEBサイトをご覧ください

みどりを育てよう! 「植樹・花壇づくり支援」希望団体募集

あしたのみどり キャンペーンWEBサイトの投稿フォームから応募受付中! 応募期間は6月27日(木)～12月31日(木) 期間中ご応募いただいた情報は随時公開 応募開始: 7月31日(木)まで 実施期間: 9月～10月 実施地: 全体的に予定 応募には必ずお申し込みください! 応募フォームから応募受付中! http://www.a-midori.jp

富士山クリーンキャンペーン2019

富士山にまつわる読み物で環境啓蒙紙面を展開。

2019年は「霊峰富士を彩る雲」がテーマ。

古来より天気予測の指標となった、富士山上空に現れる様々な雲を取り上げた。

(2019年8月21日付朝刊)

富士山クリーンキャンペーン2019



麗峰富士の絶景彩る雲

笠雲は危険を示すサイン

湿った空気が冷やされて水蒸気が飽和量を超えると、水滴や氷の粒となって空に浮かび、雲となる。周囲に遮るものがない富士山の雲は、水蒸気を多く含む湿った風が山の斜面に沿って上昇気流となり、左右に分かれたり、山頂を通過した後に波打ったりするなどさまざまな形の雲をつくりだす。その代表格の一つが笠雲だ。

富士山頂に笠雲がかかると、翌日までに雨となる確率が70%以上に達するという。笠雲は高層雲が次第に厚くなって、山頂付近に静止しているように見えるが、上空の強風で雲が絶えず新陳代謝を繰り返している。低気圧や前線が接近し、湿った暖かい空気が大量に流入してくるために発生することが多く、まれに前線通過後に現れる。笠雲もさまざまな形状があり、「ひとつ笠」「にかい笠」「はなれ笠」「われ笠」「みだれ笠」「かいまき笠」など多種多様だ。

笠雲は「巻積雲」「高積雲」「積層雲」の一種でレンズ雲とも呼ばれる。山頂への上昇気流が急激に冷やされてできる。乱気流の原因となる山岳波の証でもあり、付近を飛行する航空機には極めて危険なサインとしても知られている。しかし、時として富士山が貴婦人のつば広帽子をかぶったような、危険性とは真逆の優雅な姿を見せることもある。



貴婦人がかぶるつば広帽子のような笠雲(小町町(12月撮影))



夕焼け空に青白く輝く雲の帯が麗峰富士のシルエットを妖しく引き立てる(御殿場市(5月撮影))

光の演出で妖しげな姿に

笠雲と同じレンズ雲の仲間がもう一つの代表格であるつるし雲。山頂を通り過ぎた気流が風下上空で回転し、大きなUFO(未確認飛行物体)が浮かんでいるようにも見える。楕円状のほか、円筒状、つばさ状など形状は多彩で、発生する時間の長さも数分程度とされている。出現回数は笠雲よりも少ないが、つるし雲は笠雲よりも高確率で天候悪化の兆しと言われる。

これらの雲はいずれも麗峰富士の景観を引き立てる印象的なアクセントとなっているが、それに朝陽や夕陽などの光の演出が加わると、さらに印象度がアップする。夕暮れ時、夕焼けのピンクがかかったオレンジ色の雲海に青白く光る雲の帯が富士山上空になびく様子は、実にドラマチックで妖しげな雰囲気を出す。そんな忘れぬ感動を味わった瞬間は、数多くの富士の絶景の中でも群を抜く一コマとして永く記憶に残ることだろう。

24日に富士山一斉清掃

富士山周辺の自治体や企業、団体が組織する「富士山をいつまでも美しくする会」(会長・須藤秀忠富士宮市長)は24日、40回目の一斉清掃を県内3登山口(富士宮、御殿場、須走)で行う。

昨年は台風の影響で須走口での実施となり、53団体447人の参加にとどまったが、一昨年は100団体約1200人が参加し、345°のごみを拾い集めた。近年は自分のごみを持ち帰るなどマナーの浸透もあって登山客が増加している割にはごみがあり目立たなくなっているという。

問い合わせ先	
【富士宮口】富士宮市観光課	☎0544-22-1155
【御殿場口】御殿場市商工観光課	☎0550-82-4622
【須走口】小山町商工観光課	☎0550-76-6114

4. 加盟各社の啓発活動 ⑩中日新聞社

The screenshot shows the Chunichi Web homepage. At the top, there is a navigation bar with the date '2019年10月29日(火)', the site name '中日新聞 | CHUNICHI Web', and a search bar. Below this is a secondary navigation bar with categories like '天気', 'ウーマン', '就職・転職', etc. The main content area features a large banner for 'Nagoya B-side' with the text 'わくわく!どきどき! 名古屋の水辺が変わっていく'. Below the banner is a horizontal menu with regional news links for '愛知', '岐阜', '三重', '静岡', '長野', '福井', '滋賀', '石川', '富山', and '地方選挙'. A sub-menu below that lists '一面', '社会', '政治', '経済', 'マーケット', '国際', '特報', 'スポーツ', 'カルチャー', '特集・連載', '社説・コラム', and '動画'. The 'Viva地球' section is highlighted in green. It contains a sub-menu with 'Viva地球', '中部の環境を考える', 'インタビュー', 'SDGs from 夢チューブ', 'Special', and 'なごや環境大学'. Below this is a logo for '持続可能型 Viva地球' with the tagline '社会を目指して 地球の上で共に生きる'. The '最新記事' section features an article titled '野良猫に不妊手術を「くわな夢ワン官」 ネットで資金募る', with a photo of a woman and a cat. The '中部の環境を考える' section features an article titled 'Vol.52 あいちの未来クリエイティブ部 世代間交流会', with a photo of a group of people. On the right side, there are sections for '新聞購読のご案内', '新聞広告出稿のご案内', '中日新聞のクラウドファンディングサイト「夢チューブ」', '夢チューブ 中日新聞クラウドファンディング', '動画', 'お知らせ', and '投稿・ご意見'.

Viva地球

持続可能型社会を目指して作るページ。イベントやインタビューなど中部地区の環境情報や取り組みを発信している。

当地区は、環境がテーマとなった万博や、ESD ユネスコ世界会議が開催されるなど、環境への意識が高いエリアだ。

京都新聞滋賀本社ビル リニューアルオープン

2019年8月、京都新聞滋賀本社ビル（滋賀県大津市）を新しくオープンした。このビルは1965（昭和40）年の建設で、耐震面、環境面、また作業効率的にも見直す時期にきており、2018年4月から解体、建て替え工事をすすめていた。

新しいビルは①快適で効率的なワークプレイス②災害に強く事業継続性の高いBCPオフィス③環境に配慮したエネルギーオフィスの3点をコンセプトに掲げている。

環境面では、LED照明、人感センサー、節水型衛星機器などを採用し、省エネルギー、省メンテナンス化を図っている。



4. 加盟各社の啓発活動 ⑫山陽新聞社

楽しいキャンプの思い出



企画・制作/山陽新聞社広告本部

2 日 目
 2019年8月25日(日) 経ヶ丸グリーンパーク
 山陽新聞社主催の「エコキャンプ」が、岡山県井原市の経ヶ丸グリーンパークで開催された。今年も約2500人が参加し、自然観察教室や植樹活動などを通して自然の大切さを学んだ。



「きれいな花咲いて」と植樹



自然観察教室でクイズ対決。いずる手作りする紙風船

ローソンも参加 緑の募金 10月末まで秋の運動
 山陽新聞社主催の「エコキャンプ」が、岡山県井原市の経ヶ丸グリーンパークで開催された。今年も約2500人が参加し、自然観察教室や植樹活動などを通して自然の大切さを学んだ。



20回目のエコキャンプ
 緑の中で自然満喫
 2019井原市

ネットヨタ岡山特別協賛



野外活動を楽しみ、かけがえのない自然の大切さを学んだ。



人力発電やキャンプファイア



野外活動を楽しみ、かけがえのない自然の大切さを学んだ。エコキャンプ2019(第20回)は、岡山県井原市の経ヶ丸グリーンパークで開催された。今年も約2500人が参加し、自然観察教室や植樹活動などを通して自然の大切さを学んだ。

エコキャンプ2019(第20回)は、岡山県井原市の経ヶ丸グリーンパークで開催された。今年も約2500人が参加し、自然観察教室や植樹活動などを通して自然の大切さを学んだ。

エコキャンプの開催を盛り上げる記念撮影。会場には、自然観察教室や植樹活動などを通して自然の大切さを学んだ。

人気のエコカー試乗会



エコカー試乗会。人気車種が並び、参加者が試乗を楽しんだ。

2019年9月13日 土曜新聞掲載 16ページ

エコキャンプ2019

「地球環境と私たち」をテーマに1998年から毎年取り組んでいる環境保護キャンペーン「山陽新聞エコプログラム」の一環。2019年は8月24、25日に岡山県井原市の「経ヶ丸グリーンパーク」で開催。岡山県内の21家族約100人が植樹や自然観察教室などの野外活動を通して自然の大切さを学んだ。これまでに約2500人が参加している。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

2019年(令和元年) 6月16日 日曜日

環境教室とは?

特長 1 「水」や「土」や「食べ物」など、私たちの身近な環境をテーマに、実験や工作・料理などの楽しい体験授業を行います。

特長 2 講師は、環境問題に取り組む企業で活躍する専門家です。

特長 3 皆さんの学校や児童館などに出張し、一緒に考え、しっかりサポートします。

どんな教室があるの? 下記の3つの教室からお選びください。

ミミズのアースワーク教室

株式会社アースワーク
ミミズが野菜などの「ゴミ」を栄養たっぷりの土(堆肥)に変える仕組みを学ぶことで、ゴミの分別やリサイクルの大切さを学びます。

エコ・クッキング教室

志島ガス株式会社
「買い物」や「調理」などの場面で、環境に配慮を行う「エコ・クッキング」の大切さを学びながら、食料のロスを防ぐ方法を学びます。

旅する水の物語教室

株式会社サニクリーン
私たちの暮らしに欠かせない「水」の大切さを学び、身近な水資源の大切さを学びます。

小・中学校教員の皆さま、保護者の皆さまへ

環境教室

参加校募集スタート

第18回

開催期間: 7月中旬～9月
募集校: 3校
募集締め切り: 7月10日(水) 18時
参加料: 無料

お問い合わせ: 中国新聞社 地域ビジネス局「環境教室」係 TEL(082)236-2211



環境教室体験レポート

2002年にスタートし今回で18回目。小・中学校で環境の大切さを学ぶ授業を実施。授業では協賛企業の担当者が企業の活動を紹介し環境への理解を深める。さらに紙面で採録し、読者にも環境について考えてもらう。

▼環境教室を紹介する記事 (2019年8月8日付朝刊)



4. 加盟各社の啓発活動 ⑭西日本新聞社

汗だくになって植林した隊員たち。現地の大学生4人も参加した



ハチドリ隊員の声

- ▶ **井上健人さん** (福岡市・福工大城東高2年) クチトンネルの中は狭かったが、食堂などの部屋があった。米国をあざむいたベトナム人の知恵に感心した。
- ▶ **井上真貴さん** (福岡市・筑紫丘高2年) ベトナムは活気にあふれ、生きるために食欲に働く人々がいた。かつての日本もこのようであったのだろうか。
- ▶ **江崎萌さん** (福岡県・八女学院高2年) マングローブの広大な森を見た。すべてが戦争で失われたが、ベトナム人の努力で復活したと知り、圧倒された。
- ▶ **熊谷唯志さん** (佐賀県・早稲田佐賀高2年) 協力して400本を植林。ベトナムの人たちが植えた数はこの数十万倍にもなる聞き、もっと植林したかった。
- ▶ **小林優佳さん** (福岡県・輝翔館中教校5年) 博物館で見た写真に「未来ある少年の血が乾いた地面に吸い込まれた」と説明があった。戦争は許されざる罪だ。
- ▶ **島崎結良さん** (北九州市・沖田中1年) 地球温暖化を自分の手で少しでも止めたいと参加。一つ一つ穴を掘り植えた苗木がいつか大きな木になってほしい。
- ▶ **新開舞波さん** (福岡市・松崎中1年) 植林する本数が増えるにつれ時間がかかり、口数も減っていった。大変だったからこそ、達成感で胸がいっぱいになった。
- ▶ **田口莉麻さん** (長崎県・聖和女子学院高2年) ベトナム戦争の本当の恐ろしさを知った。二度と繰り返されないよう、一人一人が意識を持ち、行動したい。
- ▶ **恒吉留理葉さん** (北九州市・小倉高2年) 苗木が成長して地球に良い影響を与えられることができれば、これから少しずつでも環境の事を意識していきたい。
- ▶ **徳永鈴二郎さん** (福岡市・福岡高1年) ベトナムは訪れてみると想像をはるかに超えた場所だった。今後、自分の視野を広げ、たくさんの国に行ってみたい。
- ▶ **永野聖真さん** (福岡市・城西中3年) 悲惨な時代と

同じ泥色の川とマングローブの森があるカンザー地区。戦争の風化に静かに抵抗しているようだった。

▶ **鍋島恩瑞さん** (福岡県・輝翔館中教校5年) 博物館では米国とベトナムの両方の立場で歴史をより深く学ぶことができた。自分は恵まれた時代に生きている。

▶ **藤崎天斗さん** (福岡県・篠栗中3年) 広大な森を枯らす枯れ葉剤の威力に驚いた。今も枯れ葉剤の後遺症で苦しんでいる人がいると知りとても悲しかった。

▶ **森光月希さん** (佐賀県・山内中2年) クチトンネルや博物館を訪れ、戦争の傷痕を見た。人間のけんかか戦争に発展するととても恐ろしいと感じた。

▶ **森内翼さん** (福岡県・自由ヶ丘中1年) 植林を体験したことで、カンザーの緑を復活させた人々の思いを感じた。マングローブはベトナムを支える木だ。

このほか隊員経験のある藤波誠洋さん(愛知県・会社員)と須田綾さん(東京都・東大)も参加した。

西日本新聞ハチドリ隊 今年もベトナムで植林活動

次の世代に「緑」をつなぐ



カンザー地区ではこれまでにも多くの人が植林をしてきた。根付かず枯れた苗木を抜いて植える「補植」にも取り組んだ。苗木の状態を確かめながら土を上げるのも「苦労」だったと振り返る。



地面に穴を掘り1本ずつ丁寧に植えた



長崎原爆投下の8月9日午前11時に植林の手を止めて1分間黙とうした

苗木柳本 中高生ら20人参加

前日の雨で地面はぬかるみ、作業を始めると泥は足を取られた。約1分の間隔で深さ30センチの穴を掘り、苗木を植えて土をかぶせる作業を繰り返すと、体中から汗が噴き出した。杉多英隊員(福岡市・九産大九州高2年)は「想像以上に土も苗木も重く、スコップを持ち上げるのも「苦労」だったと振り返る。

カンザー地区はベトナムの作業は時間と労力がかかったが、手は休めなかった。益田翔洋隊員(福岡県・須東中3年)は「両りには大きめに植えた苗木も森の一部になるかと思うと誇らしく、うれしくなった」。

ベトナム戦争について学ぶため、市内にある戦争証跡博物館や米軍の爆撃隊が植える苗木を毎年準備している、カンザーマングループ保管理委員会の

海外での植林活動を通して中高生に環境や平和の大切さを知ってもらおうと、西日本新聞社は「西日本新聞ハチドリ隊」を8月8日から5日間、ベトナム・ホーチミンに派遣した。今年で11回目で福岡・佐賀・長崎3県在住の18人と参加経験がある2人の計20人が、1960年から15年間続いたベトナム戦争によりマングローブの森が壊滅したカンザー地区で苗木400本を植えた。隊員らの現地での活動の様子を紹介する。

戦争の時に米軍がまいた枯れ葉剤の影響で、約4万本のマングローブの森が壊滅した。戦後、1978年からホーチミン市などが植林に取り組み、自生した木も含めると現在は約3万本の森が戻った。作業後に訪れた展望台から「緑の肺」と呼ばれる広大なマングローブの森を見下ろした。湖上腫隊員(長崎県・佐世保北高1年)は「自分たちの植えた苗木も森の一部になるかと思うと誇らしく、うれしくなった」。

ベトナム戦争について学ぶため、市内にある戦争証跡博物館や米軍の爆撃隊が植える苗木を毎年準備している、カンザーマングループ保管理委員会の

「クチトンネル」などの戦跡を訪ねた。多くの人命と広大な森を奪った戦争の理不尽さを痛感した。

▶ **作業で交流深める**

作業には現地のホンバング国際大の日本語学科に通う学生4人も参加した。チャマン・ティ・キエウ・ティさんは「ベトナムのために植林に来てくれて深く感謝している」と語り、グエン・ゴック・パオ・チャムさんは「とても疲れたが日本の仲間たちの姿を見て頑張ることができた」と笑った。

中高生による海外植林活動「ハチドリ隊」

中高生に環境問題について理解を深めてもらおうと、2008年に始めた植林活動は今年で11回目を迎えた。西日本新聞社と西日本新聞エリアセンター連合会が、砂漠化が進む中国・内モンゴル自治区で4回、5回目からはベトナムで活動している。愛称は、ハチドリが森林火災を消そうと、くちばしで水を運んだ南米アンデスの伝説にちなみ、着実に環境保護に取り組むという思いが込められている。2016年4月には、中国の程永華駐日大使から「中国の緑化に貢献した」として表彰された。

(2019年10月2日付朝刊)

西日本新聞ハチドリ隊 2008年に派遣を開始し、中国・内モンゴル自治区のクブチ砂漠で12年まで植林した。13年からはベトナムで、ベトナム航空、九州ベトナム友好協会(福岡市)などの協力を受けて活動している。これまでに九州在住の中高生のべ191人が参加し、5570本の苗木を植えた。隊員はハチドリが森林火災を消そうと、くちばしで水を運んだという南米アンデスの伝説にちなむ。



(C)西日本新聞社 無断転載、複製及び頒布を禁止します。

環境問題に関する記事配信

「地球環境2019」。地球温暖化による各方面への影響および最新の動向を紹介。国や自治体、企業の環境問題への取り組みをまとめた報道。

(2019年8月8日付信濃毎日新聞夕刊)

3 2019年(令和元年)8月8日 木曜日 信濃毎日新聞(夕刊) 第三種郵便物認可

地球環境 2019

豪雨

温室ガス削減 目標上積み

【環境保護団体、気候ネットワークの平田仁子理事の話】豪雨や干ばつ、熱波の多発は地球温暖化の影響が顕在化している。先づいかに考えをたぎらねば、温暖化は多くの科学者の予想を遥かへるペースで、日本の国土に深刻なダメージを与えることになる。気候の危機が迫っている。

今後、5年以内は温室効果ガスの排出を大幅に減らさなければ、海面上昇による高潮被害が、1.5メートル以上

とある。だが、各国の削減努力は遅れている。各国政府は毎年、パリ協定に基づいて提出した削減目標を再提出することになっており、削減率を待たないで目標を再掲げ、目標を上げていく。2030年度には削減率を2015年度からの削減率から1.5%削減する。日本は削減率を2015年度からの削減率から1.5%削減する。削減目標を上げるとして削減率の目標から削減率が急ぐ。

日本企業の備え不十分

【環境保護団体、気候ネットワークの平田仁子理事の話】豪雨や干ばつ、熱波の多発は地球温暖化の影響が顕在化している。先づいかに考えをたぎらねば、温暖化は多くの科学者の予想を遥かへるペースで、日本の国土に深刻なダメージを与えることになる。気候の危機が迫っている。

今後、5年以内は温室効果ガスの排出を大幅に減らさなければ、海面上昇による高潮被害が、1.5メートル以上

とある。だが、各国の削減努力は遅れている。各国政府は毎年、パリ協定に基づいて提出した削減目標を再提出することになっており、削減率を待たないで目標を再掲げ、目標を上げていく。2030年度には削減率を2015年度からの削減率から1.5%削減する。日本は削減率を2015年度からの削減率から1.5%削減する。削減目標を上げるとして削減率の目標から削減率が急ぐ。

温暖化のリスク 深刻

熱波

【気候変動は次の金融危機となるか】をテーマに開かれた世界経済フォーラム(WEF)のシンポジウム=7月、中国・大連(共同)

災害多発で損害急増

【日本の過去10年間降水量】その前の年間に比べて大幅に増えている。私たちが、温暖化の影響の中に生き残り、リスクを減らすにはどうすればいいか。中国・大連で開かれた世界経済フォーラム(WEF)のシンポジウムで、再保険会社、スウェーデンのペロカ・ステイタスは、このように指摘した。

世界経済危機の引き金にも

ある気候変動が、世界経済の停滞を引き起こす可能性がある。温暖化による海面上昇、干ばつ、洪水、熱波などの自然災害が頻発し、経済活動に大きなダメージを与える。5月、米ハワイ州での開かれた世界経済フォーラム(WEF)のシンポジウムで、再保険会社、スウェーデンのペロカ・ステイタスは、このように指摘した。

世界で進む脱石炭

【世界では6700万トン分の石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。】温暖化対策への取り組みが、エネルギー供給の確保に不可欠な石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。温暖化対策への取り組みが、エネルギー供給の確保に不可欠な石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。

依存続く日本に厳しい目

【世界では6700万トン分の石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。】温暖化対策への取り組みが、エネルギー供給の確保に不可欠な石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。

NO COAL JAPAN

【世界では6700万トン分の石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。】温暖化対策への取り組みが、エネルギー供給の確保に不可欠な石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。

NO COAL JAPAN

【世界では6700万トン分の石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。】温暖化対策への取り組みが、エネルギー供給の確保に不可欠な石炭火力発電の新設が海外からの投資によって計画されている。その80%を出しているのは中国、日本、韓国だ。

5. 最後に

- 戸別配達網によって紙の新聞が読者に届けられることが日本社会の安定に寄与している。
- 新聞はほとんど再生紙を使っている。
- 各社は従来から啓発記事などを積極的に発信して、環境問題の重要性を読者に伝えてきた。同時に自社ビルや関連施設などで省エネに努力し続けている。

日ごろはスクープ競争でライバル関係にある加盟各社だが、環境問題についての考え方は、各社の経営トップを含め加盟全社で共有している。

新聞・通信各社は

今後も民主主義の発展に寄与し、
環境負荷低減の牽引役となるよう
業界を挙げて引き続き努力する。

日本新聞協会ホームページ「Pressnet」

「新聞界における環境への取り組み」

<https://www.pressnet.or.jp/about/environment/index.html>

(注) 当資料に収録する記事やデータ類の無断利用、転載を禁じます。